

生態系サービス支払い(PES)の 日本における制度化・政策化への課題

松下和夫

京都大学大学院地球環境学堂

本日の成果発表の意義(1)

- COP10以降の生態系保全政策へのタイムリーな貢献(理論的・政策的寄与)
- 生態系管理の評価と制度分析の包括的研究
- 生態系サービスの評価: 見えない自然の価値を市場経済の中で可視化する(TEEB統合レポート)
- ①価値の認識→②価値の証明(費用と便益を経済的価値に転換)→③生物多様性の価値を意思決定へとりこむ(経済的インセンティブ、価格シグナル)

本日の成果発表の意義(2)

- とりわけ生態系サービスの評価と支払い(PES)に関して多様な観点からの研究・分析
- ユニークなトピックも: **幸福**と生態系、**生産性**と生態系
- 新たな**制度提案**: 生物多様性オフセット、PES、環境に関する財政改革、グリーン商品市場・・・
- その中で特に生物多様性保全のための資金スキーム、外部費用の内部化の手段期待される**生態系サービス支払い(PES)**の日本における制度化・政策化への課題についてコメント

生物多様性保全政策の進化

- 従来型
 - 自然保護区設定、開発行為規制、生物種の捕獲・取引規制
 - 保護区への税減免措置、環境直接支払い(規制および税制措置中心)
- ↓
- 今後: 従来型 + **経済的手法(生態系サービス支払い(PES)、オフセット市場、バンキング、REDD+)**

PESの制度化・政策化への課題(1)

1. PES概念の曖昧性

広義のPES: 生物多様性保全に向けた、経済的インセンティブを利用する仕組

2. PESの政策としての付加価値は何か: 既存施策に対しPES概念の政策的意義は? 既存の補助金(中山間地域直接支払制度、森林保全交付金など)や税金(森林税など)、環境認証制度(森林認証など)と区別して論ずることの付加価値は。

PES類似制度とPESのバウンダーは?

PESの制度化・政策化への課題(2)

3. 生態系サービスの経済的評価とPESの実際的な制度設計の関係性: 経済的価値評価は、生態系サービスの価値を示すために重要。

ただし生態系サービスの評価額と実際の保全必要額とは別→PESの制度設計に、生態系サービスの価値評価はいかに貢献するか?

4. PESの適用範囲: 森林の二酸化炭素吸収機能や生物多様性の存在価値などのように、受益者が特定できない生態系サービスについて、PESは適用できるか?

PESの制度化・政策化への課題(3)

5. **民間による自主的取組を位置づけ促進する枠組み**: 企業にとってのPES実施メリットを示し、取り組みを評価し、促進する仕組み?
6. **永続性・持続性確保の制度設計**: 生態系サービスは短期で維持回復できない。PESの継続性は支払い手の予算の継続性に依存。→PESによる生態系サービス保全効果は、資金源の継続性に依存。そのための制度設計上の工夫は?

社会資本整備の意義の転換 コンクリートから自然へ

- 「生態系サービスは費用というより資本となりえる」(馬奈木)、「自然資本の維持・改善の必要性」(一方井)
- 人工資本に対し、自然資本(森林・沿岸・湿地・海洋・農耕地・都市生態系)の相対的希少性の高まり
 - ⇒国の政策の中に自然資本の維持・管理を明確に位置付ける
 - ⇒費用負担、管理主体、管理メカニズムの検討